

Viva 連絡会

2017年1月号 Vol.3



<発行元>

特定非営利活動法人
長野県宅老所・グループホーム連絡会事務局

〒386-0018

長野県上田市常田3-4-14 第二陽光ハイツ

tel. 0268-75-7383 / fax. 0268-29-1021

mail : nagano-taku-gh@bz03.plala.or.jp

url : <http://www.nagano-taku-gh.jp/>

◆◆◆ 巻頭言 ◆◆◆

長野県宅老所・グループホーム連絡会 副理事長 伝田 景光

平成29年、みなさん新年を元気で迎えられたか
と思います。本年も長野県宅老所・グループホーム
連絡会をよろしくお願いたします。新年を迎えら
れ、今年の目標、やるべき事を思い描いていらつしや
るかと思えます。世間で言われている30年の医療
介護の同時改正。。。確かに小規模の宅老所を運営し
ている我々にとつてあまり追い風になっているとは
思えません。あきらめ、ちよつと自棄になっている
声、どうしたら良いのか？不安の声。会員のみなさ
んで自信を持つて方向性を見極めている人は少ない
のかと。むしろ右往左往、国や市町村の「アナウン
ス」振り回されてばかりいる。そんな感じではなで
しょうか？

そんな不確定な今後を見据えてどうやって今の地
固めをするのか？それが課題ですね。とかく競争力
を優先させがちな現代であります。勝ち組負け組
とか、不正をしてまで他社を出し抜く、社員を裏切
るブラック企業。。。そういう目先の物だけを追つた
結果、社会的に消滅や縮小する企業が後を絶ちませ
ん。

昔から商売の基本は「店よし客よし世間よし」と
いう近江商人の言葉があります。30年にむけて「不
確定」な事業形態を一生懸命に追うよりも、ここは
ひとつ原点の原点、利用者よし、スタッフよし、地
域よしの「三方良し」を目指してみませんか？利
用者やスタッフ、仲間を大切にして喜んでもらい、
地域も良くなっていく。三つのバランスを取るのは
容易な事ではありませんが、我々の仕事の鍵はこれ
だと考えています。迷った時ほど原点に戻る。「初
心忘るべからず」先人達の言葉に間違いは無いと思
います。

連絡会 NEWS

◆ 地域共生社会をひもとく

10月9日 長野市芸術館

◆ 南信のつどい

10月29日 シルクホテル（飯田市）

◆ 小規模多機能全国大会

11月26-27日 軽井沢プリンスホテルウエスト

(全国小規模多機能型居宅介護事業者連絡会)

活動レポート

「地域共生社会をひもとく」に参加して

NPO 法人リラの里 宅老所ひなたぼこ管理者 小山内 貴代美

平成 28 年 10 月 9 日 長野市生涯学習センター (TOiGO WEST) にて、幼児から障がい者も高齢者と共に過ごしているケースとして、実践報告させて頂きました。「宅老所ひなたぼこ」は、14 年前に富山の惣万佳代子さん (NPO 法人このゆびと一まれ理事長) 方の宅老所を紹介する TV 番組を参考に始めました。連絡会に入会後まもなく、富山県で開催の共生ケアセミナーに参加し、そこで働く障がい者の方々の様子を衝撃を受けたことを、今でもはっきりと覚えています。「ケアするのは・・・誰」、「ケアされるのは・・・誰」ではなく、それぞれの力を集めて生活しているその姿が、「ひなたぼこ」でも目標になりました。



「地域の困った」に答えているうちに、今の形になって行ったこと、それに寄って経営は楽ではなく、無駄が多いんだろうなあ・・・でも、必要とされるサービスだと確信し発表いたしました。今後、国はこのような取り組みを広めていきたいらしいのですが、遣り甲斐だけで、広まるのか？まずは市に声を上げていかなくてはと思いました。



「南信のつどい」開催報告

グループホーム陽気 杉山 伸幸

平成 28 年 10 月 29 日 飯田市のシルクホテルにて開催され 49 名が参加しました。

当イベントのメインは、介護事業に携わる 3 名の方々の体験発表でした。今年で 16 歳になった介護保険事業はまだ未成熟であり、それぞれの方の日頃の思いと様々な課題が発表され、ともに考えることができました。

講演では、元長野県飯田創造館館長の柄木田孝行さんから「明るく楽しく前向きに」をテーマにお話を頂き、抱腹絶倒、お腹が痛くなりました。日頃、介護業務で忙しくストレスをため込みがちな我々に「今日の講演中だけでもその苦勞を忘れて笑いましょう！」という目的は十二分に果たされ、活力を頂きました。



希望！！ 親と一緒に暮らす日々を・・・

世の中の人々が、介護を通して親のありがたみを心に刻み、
ともしれば自分本位の考えに流れやすい子どもの心を戒め、
子どもである私たちが親と一緒に暮らせる日常を、
うれしい、楽しい、ありがたい、と
心に言い聞かせて生活できれば、
私たちの未来も、きっとうれしいことになり、
楽しいことになり、
ありがたい、と言える日になってくるに違いない。
それを見て、一緒に暮らす親も、
たとえ助けが必要な認知症であっても、
きっと満足できるのではないのでしょうか。

ぜひそうなるように、そうした生きざまになるよう、
自らに課題を課して、グループホームを運営しています。

グループホーム陽気 杉山 伸幸

「小規模多機能居宅介護 全国大会」に参加して

宅老所手と手 原山 直人

11 月 26・27 日に行われた全国大会 in 軽井沢に参加してきました。

全国から 300 名程の方々が集まり実践報告・ディスカッションがありました。

実践報告では、駄菓子屋を始めた事業所・毎月バザーを開催している事業所・カフェを併設し利用者さんも就労している事業所・地域住民と一緒に見守り声かけ訓練をした事例。どれもキーワードは「地域」です。事業所が地域にただ存在するのではなく、地域に根差し地域住民と積極的に関わりを持っているということが印象的でした。そうすることでお年寄り自身の、やりがい・生きがい、暮らしの豊かさにつながっていくのではないかと思います。これからは、事業所と自宅の行ったり来たりだけの生活・事業所内だけのケアでなく、利用者さん・私も含めた職員がもっと外へ出て地域の方々と関わる機会を持つことが必要ではないかと感じました。

また「障がいを持っている方」「医療ケアを必要としている方」の支援・「看取り」についての報告もありました。小規模多機能はただ「通い+訪問+泊まり」の組み合わせではないということ、利用者さんのニーズに応じて機能が変化していく、進化していくのだと改めて感じました。私も現状に満足するのではなく、利用者さんの暮らしを豊かにしていくこと、職員が働きやすくやりがいの持てる事業所に変えていこうと感じた全国大会でした。

話は変わりますが、夜の懇親会も長野県宅老所GH連絡会の方々が、ご当地「ゆるキャラ」に扮して参加者をおもてなしたり、副理事長伝田氏・和が家三井さん司会の長野県ご当地クイズ、「おもてなし真田武将隊」の演舞と、どれも長野ならではの演出は好評・大盛況でした。長野県宅老所GH連絡会の企画・運営力を発揮した懇親会となりました。



リレー特集 中信会員の取り組み

法人名 **特定非営利活動法人 峠茶屋**

事業所名 **宅老所峠茶屋** (地域密着型通所介護)

〒399-7417 長野県松本市刈谷原町 531-1

tel. 0263-64-1141 fax. 0263-64-1140

e-mail. info@touge.or.jp



松本市四賀地区（旧四賀村）に介護事業所として根を下ろしたのは、今から 14 年前の 2003 年です。

最初は 10 人定員の宅老所からスタートして、居宅介護支援事業所を立ち上げ、次に 24 時間認知症の方々を支えるべく、2008 年に 1 ユニットのグループホームを立ち上げました。



認知症介護の重要性をかみ締めながら、2014 年に住宅型有料老人ホーム（7 名）、訪問介護ステーション、訪問看護ステーションを立ち上げ、認知症介護と言えば「峠茶屋」、困った時の「峠茶屋」として、人生の大先輩の方々の最後のステージを黒子に徹して演出できるように、毎日笑いあり、涙ありの介護を実践しています。

ある大先輩の独り言より

馬鹿になってせ忘れるだいな。いいじゃんかい、歳とりゃみんなそうなるじ。

NPO 法人峠茶屋 副理事長 木村有一

今後のスケジュール

- | | |
|------------|---|
| 2月 8日 (水) | 認知症ケア上級研修 (ひもときフォローアップ)
in 塩尻市総合文化センター |
| 2月 26日 (日) | 「こどもカフェ」を考えるシンポジウム
in 松本大学 |